

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 安来市立宇賀荘小学校～

1. 活動の概要

6月23日(火)、安来市立宇賀荘小学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。“古墳時代の安来について学び、はにわ作りに挑戦しよう”と題し、ミニはにわ作りを中心とした学習活動を行いました。

最初に、宇賀荘小学校のある安来市域が古代にはどのような地域であったのかを知ってもらうため、安来市域の縄文時代から古墳時代の遺跡について紹介しました。その後、古代出雲の地誌である「出雲国風土記」が編纂された奈良時代の安来の様子を古代山陰道の地図を見ながら説明し、宇賀荘小のすぐそばに出雲国府と奈良の都を結ぶ山陰道という重要な道路が通っており、この道を通じて都から最新のものや情報がもたらされたことを紹介しました。

つづいて、市内の遺跡で見つかった土器やはにわを観察してもらった後、実際に土器をさわったり、持ち上げたりして、質感や重さなどを体感してもらいました。

そして、はにわにはどのような種類があり、はにわからどんなことがわかるのかを説明し、粘土でミニはにわを作ってもらいました。この体験活動を通じ、はにわの役割やはにわ作りの流れ、作る際に難しいところを実感してもらえたと思います。

2. 活動の様子



「古代の安来ってどんなところだったのかな」



「古墳はどんな形で、どんなはにわが並べられていたのかな」



「安来市内で見つかった土器やはにわをさわってみよう」



「粘土でミニはにわを作ってみよう」

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・こふんやいせきの数があんなに多かったんだと思いました。
- ・古ふんがあったところにじっさいに行ってみたい。
- ・土器を持って少し重かった。

2)担任の先生から…

・地域の文化財について知ることができたことと、本物の出土品に触れる経験ができた

3)古代文化センターから…

児童の皆さんには最初に宇賀荘小学校のある安来市内に遺跡がどれくらいあるか考えてもらいました。約900ヶ所と答えを発表すると、安来市に遺跡があると思っていた人も多かったようで、とても驚いた様子でした。座学では古代の道路地図や古墳の写真などを通じて、学校の周辺にもたくさんの遺跡があり、縄文時代から人が住み、行き来していたことを実感してもらえたと思います。

また、古代の人びとの手で作られた土器やはにわを実際に触ってもらったことで、当時の人の技術や生活を想像してもらえたのではないかと思います。

ミニはにわ作りでは、はにわの写真をよく観察して、飾りなどを付ける児童もいて、座学だけでは気が付かない細部にも目を配りながら、はにわ作りの大変さを実感する機会になったと思います。

今回の学習や体験活動が、地域の歴史や身近な遺跡に興味関心を持つきっかけになれば嬉しいです。